

出土遺物



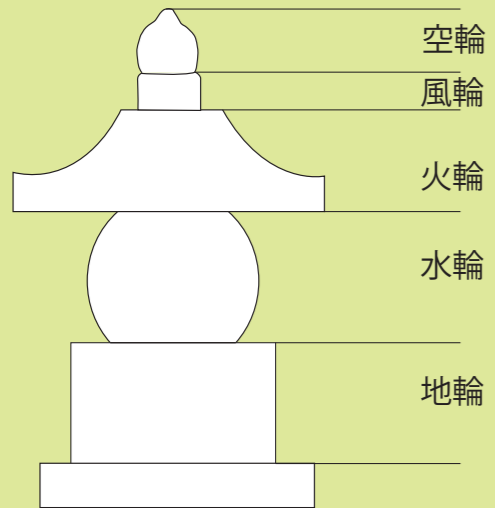
土師器皿（かわらけ）



うるしわん
漆椀



五輪塔（空・風輪）



五輪塔模式図



遺物の出土状況



昨年度出土すり鉢、鍋

はじきざら

遺物の出土は堀の中からは多く、土師器皿（かわらけ）やすり鉢、内耳鍋などが多く見つかりました。木製品の出土も多く、漆が塗られた木製のお椀やばらばらになった桶、下駄などが見つかりました。

見つかったものは日常的に使用するものがほとんどでした。

本日の説明・資料は現段階での成果に基づくであり、今後の検討によって、変更になる場合があります。

山梨県埋蔵文化財センター（山梨県庁 観光文化・スポーツ部）

<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>
電話 055-266-3016（平日 8時30分～17時15分）



二又第1遺跡現地説明会資料

2023年10月15日（日） 山梨県埋蔵文化財センター



二又第1遺跡を西から望む

これまでの二又第1遺跡

二又第1遺跡は今から約600年前（室町時代～戦国時代）の遺跡です。令和2年度から調査を行っており、今年の調査で3回目の発掘になります。

昨年の調査では、建物跡を囲む濠がいくつも集まっている様子が確認できました。濠の中の空間には建物跡と井戸とお墓が見つかり、当時の生活の様子が想像できます。



調査区東側石列



調査区北側上空より

注目① 建物跡を囲う壕ほり



柱穴が多く集まっている空間の周りに溝が巡っている様子を確認することができました。この溝の外側から柱穴は見つからず、この溝は生活を行った空間を分ける壕の役割を果たしていたものと考えられます。壕の中の空間では柱穴が約 200 個程見つかり、建て替えを頻繁に行っていたことが想像されます。

昨年度の調査でも同じ性格の壕を見つけており、二又第Ⅰ遺跡は壕に囲まれた空間が集まったムラであったと考えられます。

注目② やしきぼ 屋敷墓



今回の調査では、お墓 5 基が見つかりました。うち 3 基からは子どもの骨が見つかり、木製の棺に入った人骨は 5 基のうち 1 基のみでした。

これまでの調査でもお墓が見つかっており、合計でお墓は全部で 31 基になります。

どの人骨も頭は北で顔は西に向け、体を折曲げた状態で埋葬されていました。

注目③ 井戸



今回の調査では、井戸を 1 基発見しました。井戸の底には木桶がおかれており、その周りに土留めとして石が積まれていました。

この井戸は建物跡を囲む壕の上に作られており、壕が埋った後に作られたものと考えられます。